
イダー × 魔法少女 × 魔法少女 ディケイド&リリカルなのは&まどか マギカ ~ スピンオフ劇

トーマス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー×魔法少女×魔法少女 デイケイド&リリカルなのは&まどか マギカ〜スピンオフ劇場〜

【Nコード】

N9220Y

【作者名】

トーマス

【あらすじ】

仮面ライダー×魔法少女×魔法少女 デイケイド&リリカルなのは&まどか マギカ クロス大戦のスピンオフが、ついに登場！！各キャラクター達による、笑あり涙（あるのか？）（グロ無し）のドタバタの昔話による劇や色々と繰り広げた為に、周りはとんでもない力オスな状態で大暴れ！

・本編のクロス大戦との繋がりはありませんが一部、原作のネタバレが含まれていますので閲覧には気をつけてご了承ください。それ

と、特別ゲストも参戦します。

『シンデレラ』（前書き）

はやて「この度、仮面ライダー×魔法少女×魔法少女 デイケイド & リリカルなのは&まどか マギカ クロス大戦が予想外にも5万 いっちゃったので、スピンオフ作りましたー」

キバット「まあ、アレだよなー作者自身もここまで伸びるとは思っても見なかったらしいぜ」

はやて「『どうぞ、良くっても1万程度だろー』って思っていたそうや。」

キバット「そんなもって調子に乗って、スピンオフだよ。本編だつて、あんまり進んで無いのに、これだよー」

はやて「そうやなーアクセス数が伸びても、ポイントが中々伸びても無いのに、よくやりおるわ」

キバット「本編の一部でドタバタやり過ぎて、お気に入り数が減ったよなー」

はやて「うんうん。それで、少し真面目に書いたら、残酷な描写ありな話にしたら、それでも減ったわなー今は落ち着いているけど」

ユウスケ「誰があの人止めなよ」

まどか「もう、作者の本音語ってますよ…」

はや・キバ「そんなこんなで、スピンオフ第1弾・シンデレラ始まるよー」

『シンデレラ』

はやて（ナレーション）『むかーしむか…って、杏子ちゃんちよつと聞いてええか？』

杏子^{シニコミ}『なんだよ、はやての姉ちゃん？続き言わないのかよ？』

はやて『前から思ってたんだけどな、このむかーしむかしって、どのくらい昔なん？』

杏子『えーっと……って、知りませんよ！そんな作り話の時代なんて！』

はやて『まったく、これだから作り話は困るんやーせめて、ちゃんとした時代設定を考えて欲しいわー』

杏子『知るかあああー！第一、子供が見る本なんだから、細かい設定なんて作っても子供は興味出ませんよ！』

はやて『それ一理あるわ。てな訳で、なんやかんやで昔々、ある国にシンデレラって子がいたそうなー』

杏子『なんやかんやって、適当過ぎだろおおおー！！』

はやて『しかしシンデレラは継母と二人の姉に毎日毎日、メイドのように扱き使われていたそうやー』

オクタヴィア（継母）『ガアアアアー！（シンデレラ！ちよつと来なさい！）』

セミロング・さやか（シンデレラ）『な、何でしょう…お、お母様…』

オクタヴィア『ガアアアアー！！（何でしょうじゃないわよ！部屋が汚いじゃない！）』

杏子『シンデレラはセミロングのさやかで、継母は魔女のオクタヴ

イアかよ！？まだ、クロス大戦本編にも出てないのに出して良いのかよ！？」

はやて『一応、原作ネタバレって書いてあるから平気や』

杏子『聞いてないよ、そんな話！そもそも、あのオクタヴィア何処から連れて来たんだよ！？』

はやて『えーっと。丁度さやかちゃんが失恋して、フラれて泣いてその腹いせに悪さしたい願いで、産まれたばかりの魔女や。原作のまどマギ8話の最後の所からかな』

杏子『そこから連れてくるなあああー！！それと、何であるオクタヴィアは普通の演技してるんだよ！』

はやて『まあ、コメディーって事で。笑って流して欲しいな、そこお姉さんとお約束や！』

杏子『そんな事でどうでも良いから、早く続きを始めて！話が止まってるから！』

はやて『あー大丈夫や。私がナレーションしなくっても、勝手に始めてくれるよ』

セミロン・さやか『あ、はい……』

オクタヴィア『ガアー！（くずくずしないでさっさとしなさい！）

はやて『えっー実際、オクタヴィアのセリフが『ガアアアアー！』

から『ガアー！』になったのは、作者が面倒！って、事で投げやりに変わりましたー』

杏子『そこまで言わなくて良いんです！ああもう！継母はシンデレラに対してとても意地悪でした。そして、シンデレラは継母の言う通りに散かった、食器を……』

セミロン・さやか『あう！』

杏子『——豪快に転んで、食器を割り……って！このさやかドジっ子！？』
はやて『なかなか萌えるやろ？ドジっ子属性のセミロングのさやかのシンデレラ。しかもクマさんパンツ！』
杏子『聞いてねよー！ー！けど、クマさんパンツのさやか嫌いじゃない！』

オクタヴィア「ガァー！（これで今日何枚割ってるんじゃないかああああー！ー！）」
セミロン・さやか「あう……ごめんなさいですう……」
オクタヴィア「ガァー！（ごめんで済んだら、魔法少女と仮面ライダーと魔女は存在しないの！ー！）」↑『そこは同意！by杏子』

「シンデレラー！」

はやて『豪快に転んだため、鼻血がダラダラ出ているシンデレラを呼んだのは、継母の実の娘でシンデレラの義姉の二人……』

Mフェイト（義姉1。赤いメッシュが入った逆立った髪）「おい！シンゴリラ！俺のプリンは何処だ！？」
シヨウイチ（義姉？その2。何故がア。クと同じ髪型）「何で俺が義姉役なんだああああー！ー！？」

杏子『何で義姉がシヨウイチのおっちゃんとモモタロス何だよおおお！？むしろ、モモタロス追い出して、普通にフェイト姉ちゃんが良いだろ！？それと、おっちゃんの髪型をアン。風にするな！！』
はやて『まあまあ、普通に女性陣の誰かにしたら面白くないやんかーだから、ここは男性にして面白おかしく……』
杏子『するなあああー！ー！……』

シヨウイチ「あーそのなんだ、劇の台本通りにしたい。だから、すまないが俺の服を洗ってくれ。それとこんな劇、早く終わらせたい」
Mフェイト「いいから、さっさとプリン出せー！シンゴリラ！」

杏子『この馬鹿桃！さっきから名前間違えるんじゃないやねえええー！
ー！！』

~~~~~

はやて『そんなこんなで、シヨウイチ義姉さんの服を洗濯する為、家の裏井戸から水を汲み、桶でゴシゴシ洗濯するシンデレラ。――

――誰や？こんな寒い11月に手洗いで洗濯するって、台本に書いた鬼は？』

杏子『アンタだろおおおおー！！！』

さやか「あう……お父様、どうして私を一人にするの？」

はやて『えーシンデレラのお父様は遠くの町で不幸な事故により、この世から去ってしまったんや……』

――回想――

シンデレラのパパ

QB『君達、魔法少女になれる素質があるね！僕と契約して、まほ

……あばあー』

まどか（町娘）「きやああー！ほむらちゃんが変な生き物を蜂の巣にして殺しちゃったよおー！」

キヤロ（その2）「この人で無しー！！」

ほむら（その3）「ほむっ！」

――回想終了――

杏子『確かに不幸な事故だけど、あいつが親父役かよ！？それと、ほむらああー！ドヤ顔でこつち見るなあああー！！』  
はやて『そんな可愛そうなシンデレラをナズエミテルンデイス！！なネズミがいました』

杏子『オンドウル語で言わない！』

キバット（ネズミ１）『うほっ！いいおっぱい！揉ませろ』  
エリオ（その２。何故が電気ねずみのコスプレ）『何で僕この衣装なの？』

杏子『エリオはどうでもいいけど、駄コウモリいいいいー！！何で、コウモリがネズミ役なんだよ！？それと、今のも台本通り！？』

はやて『ちやうよくキバットとモモタロスだけは、全てアドリブや！』

杏子『何でアドリブにしちゃうのおおおー！？モモタロスは良いけど、キバットの事だから完全にアウトな発言言っちゃうよ！今すぐ、台本を修正に…』  
はやて『却下』

さやか『こ、こんにちは。ネズミさん』

キバット『おいおい、このさやか良いおっぱいじゃねーか！少し揉ませろ』

さやか『うえええー！？』

キバット『まったく、何だよこのさやかのおっぱいは！原作のさやか以上でマミと良い勝負の乳だ！このピーチおっぱい！俺とあぎやああああー！！』

ティアナ（黒子？）『はい。駄コウモリは不幸な事故によって退場しまーす』（両手にはクロスミラーシュを構えている）

スバル（黒子？）「あつ、私たちは黒子だから気にせず続き始めて！」

エリオ「（そうしたいけど、僕にセリフは…）」

さやか「あつ、良いんだよ。私、洗濯と掃除嫌いじゃないよ」

エリオ「（すみません…僕何も言ってます）」

はやて『因みにセミロングのさやかちゃんのおっぱいは、中々の熟した桃やで！でも、シグナムの乳の方が最高やー。そんでもって、その時や！お城の人がやってきて、パーティの招待状を持ってきたんや！』

杏子『普通に言ってるけど、いつの間にあっちのさやかのおっぱい触ったんじゃああああー！！ちくしょー！あたしも……って、これ以上言えるかあー！（ノノノ）』

はやて『ウフフフ…ツンデレやな』

オクタヴィア「ガァー！（まあ、お城のパーティですって!?!）」

シグナム（お城の人その1）「（何言ってるんだ、この魔女は…?）」

まあ、そうだ。是非とも来てくれ。」↑適当に答えた

シヨウイチ「行きたくねえ……」↑心からの本音

Mフェイト「プリン」↑これもアドリブ

シグナム「すまん、くっ…芦河殿。くっ…では、さらばー！」

杏子『アレ。普通に言ってるけど、シグナム姉ちゃんどう見ても、シヨウイチのおっちゃん女装に笑いに耐えているよね!』

オクタヴィア「ガァー！（なんでもお城の王子のお妃を決めるパーティらしいよ!）」

シヨウイチ「マジ行きたくねえー！もう帰って良いか!?!」

Mフェイト「んなことより、プリンまだー?」

オクタヴィア「ガァー！（王子様に気に入られるよう、頑張るんだよお前たち！）」

シヨウイチ「話し聞いてた！？」

杏子『もう、台本通りにやっているのオクタヴィアしかいなくないや、気持ち分かるけどさあ、おっちゃん！』

はやて『お妃様になれる！っと、聞いて！キヤーキヤー嬉しそうに喜ぶ義姉達！一人は早速ドレスを探しに、もう一人は御粧しに大慌てや！』

杏子『喜んでないからね！シヨウイチのおっちゃんなんて、もう涙目だよ！誰が助けてやれよー！それと、あたしもツツコミから助けてー！！』

はやて『そんな義姉達が喜ぶ中、シンデレラもナズエミテルンディス！！状態で継母を見ていたんや。』

杏子『あー大体分かった。渡そうと思ったら、暖炉に燃やされるんだろ？』

さやか「あ、あの…お、義母さま…わ、私も…ダメですよね？」

オクタヴィア「ガァー！（まあ、これはアンタ宛てだし…べ、別に行っても良いわよ！今回だけは特別なんだからね！！）」

さやか「あう……あ、ありがとうございます！」

杏子『予想外キター！？それとシンデレ・オクタヴィア！？ちよつと、これ本当に予想……』

さやか「わーい！わーい！…あぎゃー！」

はやて『シンデレラは嬉しさのあまり舞い上がって転んで、そしてお城への招待状は暖炉に燃えてしまった……』

杏子『こっちの方が予想外だあああああー！！！？何この不

幸ぶり！？ドジっ子じゃなくって、薄幸娘だよ！あれか！不幸の上条さんか！？それとも幸太郎さんの影響！？』

さやか「あああああー！？」（涙目）

シヨウイチ「——これ、やるから代わりに行ってくれ。うん、マジで」

オクタヴィア「ガァー！（これはフォロー出来ないわ）」

Mフェイト「まあ、泣くなつて。良太郎なら、今ので一緒に招待状と共に燃えてるぞ」

杏子「なんか、本当に予想外にも同情されているよ！これシンデレラだったよね！？この際、シヨウイチのおっちゃんの招待状で行っちゃえよ！さやかとおっちゃんの為にもさあ！』

はやて「そうは問屋が許しまへん！それから、シンデレラは家にお留守番で継母と義姉の二人はお城に行ってもうた！』

杏子「アンタって人はあああああー！ー！ー！ー！』

さやか「あうう…何でいつも、こんな目に遭うの…お母様」

はやて「シンデレラのお母さんも不幸な事故により、この世から去ってしまったんや……』

―回想2―

マミ（シンデレラのママ）「私、今の夫と別れて新しい夫と結婚するの！」

ワタル（その新しい夫…と言うか無理矢理結婚させられる少年）「たーすーけーてー！」

マミ「だから、もう何も怖…」

シャルロット（旅人）「子供を泣かすなあ！」（マミった）

―回想終了―

杏子『ママかよ、お母さん役！？これ不幸……じゃないな、自業自得だ。うん』

はやて『そんな悲しい思いをしているシンデレラの前に、ある声が聞こえたんやー』

「——バスタアアアアアア——！！！」

はやて『——え…っと。家に現れたのはディバインバスターをぶっ放した魔法使いさんや』

杏子『何処が魔法使い！？アレ、家が半分消滅したよ！シンデレラ無事だけど、家が壊れたよ！？アレ、魔法使いじゃなくなつて魔砲使いだよ！』

なのは（魔法使い？）「にやははー初めまして、シンデレラ。私が皆に夢と希望を与える美少女魔法使いさんだよ」

さやか「あ、あのお…」

なのは「何かな？」

さやか「帰ってください」↑勇気を持って言つた一言

なのは「（笑顔でさやかに向けてRHを構える）」

さやか「う、うそですうううー！ー！ごめんなさいー！ー！  
！」

なのは「それでね！私が来たのは」

さやか「家を破壊しに来た？」

なのは「スター…」

さやか「（もう涙目で、白旗を出す）」

なのは「貴女をお城のパーティに連れて行こうと来たんだよ」

さやか「ほ、本当ですか！？お城のパーティに連れて行ってくれるんですか、魔砲使いさん！」

なのは「うん！私の仲間が貴女を連れて行ってくれるの！」

さやか「——仲間？」

はやて『そう言って、魔砲使いさんはシンデレラと共に外に出たんや。そして！そこにオーロラが現れて、その中から出てきたのは』

ディケイド（その仲間）「おい。馬と馬車、連れてきたぞ」

アंक（特別ゲスト1）「誰が馬だ！」

カザリ（その2）「ちよつと、何で僕らを呼ぶのさ！？まだ、ME GAMAX始まってないよ！？」

ウヴァ（3）「っ！か、誰が馬車だ！」

杏子『何でグリードオオオオオオ——？いや、そもそも何で出すんだよ！クロス大戦にオーズ出てないよ！なのは何で！？』

はやて『特別ゲストのグリードの皆さんや。因みに、全員完全体なので、ご心配無用やな』

杏子『そうじゃなくって、もしヤミー作られたら……』

なのは「良い3人（体？）とも、勝手にヤミー作ったら……全力全快（全壊）でメダル破壊するからね……」

アंकカザウヴ「「はい！」「」」

杏子『（あの姉ちゃんの事だから、冗談抜きの本気で破壊しそうな予感が……）』

さやか「あのお……その前に私、ドレス持っていません……」

ディケイド「ん？それは大丈夫だ。写真館から色々あるから持って

きたぞ」

はやて『えー本当はここで、『ドキッ！さやかちゃんのモザイク無しの生着替え！ポロリも丸見えもあるんだよ！』なんです、これは小説の為、絵がありません。——チッ！』

杏子『（さやかの為にツツコミたいけど、実はさやかの生着替えが超見たい！っと、言うジレンマに悩む）』

さやか（水色のドレスにスカートの部分に白のフリル。妙に胸元の谷間が見えている）「ど、どうですか……」（／＼／＼）  
ディケイド「まあまあだな。大体65点って、所だな」

杏子『ドレス姿のさやかも可愛い！そして、何処が65点なんだ！？あのバーコード潰す！』

はやて『——っと、杏子ちゃんの心の代弁を私が代わりに語りましたー』

杏子『コラアアアー！！勝手に捏造して語るなああああー！！！！』

はやて『でも、着替えは見たい？』

杏子『……なあ！？』（／＼／＼）

はやて『さつき、実は裏方のシンジさんに頼んで盗撮して貰ったんだけど……欲しい？』

杏子『くっ……そー！』

さやか「それで！どうやって、お城まで行くんですか？」  
なのは「そのグリード。さやかちゃんを担いで運んでねー」

騎馬戦でもするかのように、さやかを担ぐグリード達

アंक（正面）「クソッ！これが終わったら、アイス食わせろよな

！」

カザリ（右側）「もう、さっさと終わらせて欲しいんだけどね」

ウヴァ（左側）「あの女共め！覚えていろよ！」

なのは「それと、今更脚本通りに言っちゃうけど、12時までには戻って来るんだよー！」

さやか「はーい！」

はやて『こうして、シンデレラはお城に向かいましたー』

なのは「…今更言っけど、あのオーロラ使えば直ぐに着けるよねー」  
ディケイド「まったくだ」

杏子『何の為にグリード呼んだのおおおおー！？それと本当に今更言っけど、これ魔法じゃないよね！』

~~~~~

お城

恭介（王子）「あのお……これって、何の罰ゲームですか？それと、あの怪物は何ですか？」

シヨウイチ「すまん。こんな、くだらない話に付き合ってますまん。

けど、アレには声を掛けるな。別な意味で死ぬぞ」

オクタヴィア「ガァー！（恭介ええええええー！！）」（号泣）

恭介「は、はあ…」

Mフェイト「プリンまだー？」

ほむら（招待された人1）「きゃーおうじさまー」（棒）
まどか（その2）「このおんしらずーうまにけられてしねえー」（

棒)

カズマ(その3女装1)「このさるがおのいっぱんしゅん」(投げやり)

恭介「ちょー!?よく分からない状態で連れて来られているのに、何で僕ここまで言われているの!?!」

オクタヴィア「ガァー!」(恭介ええええー!結婚してえええええー!ー!ー!ー!)

恭介「初めて会うのに、何処が懐かしい感覚が!?!けど、あの化け物、顔が怖っ!」

仁美(招待客)「まあ!怖いですわ、王子様!」(抱きつく)

オクタヴィア「ガァー!」(怒りの嫉妬パワーああああああー!ー!ー!)

ソウジ(その4女装2)「ところでおでんは無いのか?」

シャマル(お城の人)「ありますよー私の自信作のおでんなんです!」

ヴィータ(その2)「シャマルのデスおでんを食べたソウジのおっちゃん口から泡だして倒れたあああー!」

シグナム「シャマルうううー!?!」

リン(マスコットキャラ)「早く医務室に連行ですうー!」

杏子「ちよつとおおおおー!これ、とんでもないドロドロな展開発動だよ!三角関係な空気が重い!ー!それと、他の皆は平然とスルーするなああー!?!」

はやて「そんなことは置いといて、お城にやってきたのは傷だらけのシンデレラが来たんや!」

さやか「あううう……途中で転んで顔が痛いよあ……」

アंक「まさか道の途中でな……」

カザリ「あれは反則だよーねー」

ウヴァ「バナナの皮で転ぶとはな。誰のせいだ？」

アंक・カザリ「そのバナナの皮で豪快に転んで、シンデレラを投げ飛ばしたのはお前だぁぁぁー！ー！！」

杏子『何やつてるんだ！あの虫頭ぁぁぁー！ー！』

はやて『ウヴァの事も置いといて。一方では、オクタヴィアと仁美の壮大な殴り合いが始まっている中、王子こと上条恭介はシンデレラの元に向かったんやー』

杏子『その二人を誰が止めるよぉぉぉー！』

恭介「えっと…（何だろう…このさやか、ちょっと可愛い）僕と踊ってくれますか？」

さやか「――」

はやて『ついに、夢にまで見た光景やなー』

杏子『これで、さやかも報われ………』

さやか「すみません、チェンジで」

杏子『なんでだぁぁぁぁぁー！ー！？』

さやか「私、実は…ちょっと男の子っぽい女の子が好きなんです…なので、チェンジで」

はやて『ってことで、チェンジされて代わりに杏子ちゃんが王子様役に変更でーす』

杏子（王子代理）「聞いてねえええええー！ー！」

さやか「結婚してください！」

杏子「ど真ん中のストレードに言ってきたよ！このさやか！」

キバット（代理のツッコミ役？）『もうこの際、おKしてベッドで
ゴールインしてよくね？』

はやて『そんなもつと、子供には見せられないシーン発生やな！』

杏子「するなあああー！ー！」

さやか「イヤ…ですか？」（うるうる）

杏子「い、いや…そうじゃなくて…」

さやか「もしかして、小さい胸が好みでしたか？」

杏子「（どう返せばいいんだー！？ああもう！もし、あたしが男だ
ったら、即コレクツテモイイカナ状態だよ！）」

はやて『ウフフ…面白くなってきた展開やな…』

キバット『ねーちゃんも悪だねーでも、嫌いじゃないぜ！』

カーン、カーン！

はやて『なんで、鐘が鳴るんねん！KY鐘！』

キバット『この際、もうちょっと先延ばして、二人がベッドの上で
（ピー）で（ピー）するまで待つか』

杏子「出来るかああああー！オイ、一応台本通りってことで、
12時になったから帰ってくれ！頼むから！」

さやか「イヤです！」

杏子「話し聞いてた！？アンコ！こいつを連れて帰ってくれー！
ー！」

アンク「誰がアンコだ！アンコ！」

杏子「うるせえー！誰がアンコだ！いいから連れて行ってくれ！こ
の話を為にも！」

アंक「チツ——これが終わったら、アイスパフェ食わせてもらうぞ！」

さやか「あーれー」（ガラスの靴を落とす）

はやて『なんちゅうか…怪物にさらわれるお姫様やなー』

キバット『全くだー』

カザリ「あれ？僕たちいらない？」

ウヴァ「どうでも良いから帰りたい」

~~~~~

はやて『それから翌日やー王子は昨日の女の子を探すため、ガラスの靴を持ちながら町中探し回って、苦戦したそうやー』

杏子「だって、知っているからね！シンデレラがさやかだってことも！」

キバット『まあーアレだ。このまま、ダラダラやっておけば良いんじゃないね？』

杏子「出来る訳ないだろー！わかったよ！行きますよー！」

はやて『ついに、愛しの少女が住む家に辿り着いた王子！』

キバット『ああー我が愛しの姫よー私が貴女の身と心を奪いに来たぞー！』

杏子「（あの二人後で殴る！）おーい、失礼しまーす」

シヨウイチ「おっ、やっと着たな。連れて行ってくれ」

Mフェイト「コイツを幸せにしてやってくれ。」

さやか「あうう…私を貰って…ください」(ノノノ)

杏子「ちよつと！まだガラスの靴履かせてないよ!？」

シヨウイチ「そんなことどうでも良い！早く終わるんなら、さっさと連れて行ってくれ！」

杏子「えええええええー！ー!？」

Mフェイト「今すぐ、お城に連れて行け！」

ディケイド「任せろ」

はやて『ディケイドのオーロラによって、王子様とシンデレラはお城に戻り、2人は末永く幸せになったとさ』

キバット『めでたし、めでたしー』

――終わり――

## 『シンデレラ』（後書き）

スピノフ第1弾が本当に酷いw誰だよ、こんなに酷いシンデレラを書いた奴！（自分です）

スピノフの方はのんびり更新で行こうと思います

## 第2回！ 裸の付き合いは、色々楽しいよね！

士「今日は特別ゲストを呼んできたぞー」

一同「「「はい？」「」」」

士「はい？じゃない。特別ゲストだ」

さやか「えっ？だって、今日もあのgodgod劇じゃ……」

なのは「うーん。それがね」

ゼペリオン光線——♪

ぎゃああああああ——————！！！！？

スバル「何、今の悲鳴？」

なのは「前回の劇で色々やりたい放題で暴れた八神部隊長に神の鉄槌を与えてます♪」

ワタル「ついでにうちの駄コウモリも一緒です。」

フェイト「だから、暫くはあの劇はやらないよ」

一同「「「た、助かったー」「」」」

翔太郎「（一番ツッコミたいのは、誰があいつらを神の鉄槌を与えているんだ？）」

まどか「それで、その特別ゲストって、誰なんです？」

ほむら（？）「こっちのまどかも可愛いわ……」（まどかのパンツ、ガン見）

まどか「ほむらちゃん、何処見てるのおおおお——！！？」

「????「ほむらあああー!?!」」

「????「早速変な印象与えないでえー!?!」」

ほむら「ほむーん!」

謎の少女にツツコミキックを喰らうほむら。その勢いで、壁に直撃。

まどか「ほむらちゃん!?!」

ほむら「呼んだ?」

まどか「ふえ!?!な、なんで……」

スバル「ほむらが二人!?!」

士「やつと来たか、ファイズ」

「????「ああ、来て早々そっちのまどかに悪いことしたが。」」

見知らぬ青年に壁に直撃したほむらの尻を蹴り踏みつけるまどかだった。若干、尻を踏みつけられているほむらは、喜んでいるように見えるのは気のせいである。

スバル「って、まどかが二人!?!」

ティアナ「それと、ほむらも二人いるわ」

さやか「これが、噂のゲップルドンガーって奴!?!」

ワタル「それを言うのなら、ドッペルゲンガーですよ。本当に馬鹿ですね」

さやか「誰が馬鹿よ!あんだ、後で殴るわよ!」

マミ「殴ったら、ティロフィナーレよ。美樹さん?」（満面の笑顔）

さやか「今は冗談です!」

エリオ「あの、いい加減に本題をお願いします」

カズマ「以下同文」

杏子「左に同じく」

なのは「この人達は、亜雲AZさんの『仮面ライダー×魔法少女  
555 MAGIKA』THE LAST K/NIIGHT M  
ISSION』作品に出てくる人達なんだよ。」  
士「どっちかって言うと、『仮面ライダー×魔法少女 555 M  
AGIKA 超スピンオフ!』の設定だ。そして、この無愛想な奴  
がオリジナルのファイズ。『乾巧』だ」  
巧「誰が無愛想だ、ディケイド!」

F まどか「来て早々、ごめんね。こっちの私」  
まどか「う、うん。ちよっと、驚いた」

F ほむら「……」

ほむら「……」(お互い握手をするWほむら)

スバル「ねえ、あの二人無言なのに握手するの?」

ワタル「似たもの同士、何か感じたんでしょ」

さやか「って事は、私達も来るって事!」

杏子「あっちのあたしにさやか……何か嬉しいような、嬉しくない  
ような気が……嫌な予感が」

マミ「私も楽しみだわ」

F さやか「いやぁごめん、ごめん。これ探してたら遅れちゃった」  
F 杏子「そもそも、何でこれ持つてくるんだよ」  
つ シャルロット第2形態を模した筒に入ってたマミられたマミ風  
の棒

アン・さや「何か持つてきたあああああ……!」  
マミ「何、この私の扱い!」

F 杏子「ここが……名前長いから、クロス大戦の世界かぁ」

F さやか「そこ抄訳しない!でも、長い」

さやか「うん、言ってる」

杏子「まったく」

マミ「何で、あっちの私は出て来ないのよ……………orz」

シンジ「ケーキやけ食いた挙句にロールケーキにシャルロットって書いてフォークで滅多刺ししてシャルロットの怒り買ってマミかられたからだよねー」

ワタル「それに、あっちのスピノフでも現在謹慎中なのに、こっちで普通に出たらおかしいですもんね」

~~~~~

士「これで大体揃ったな」

巧「いや、まだ揃ってないんだ」

まどか「？私にほむらちゃん、さやかちゃんと杏子ちゃん。それと棒のマミさん。全員揃ってますよ？」

杏子「揃ってねーから。人って言うより棒だろ」

F杏子「あれでもマミって事で、スルーしてくれ」

さやか「スルー出来るもんなの？」

Fまどか「うん」

士「それで、残りはまだ来ないのか？」

巧「あいつの事だから、そろそろ……………」

バジンたん「キャーご主人様」

真理「ちよつと、勝手に行かない！」

バジンたん「黙れ、影薄ヒロイン（笑）」

士「アレか？」

タクミ「隣の娘、メイド服着ていますね」

ソウジ「君の趣味か？」

巧「俺に聞くなあああーーーー！！」

ワタル「僕的には、その隣の人が気になります」

Fさやか「それで、こっちのファイズって誰？」

タクミ「僕がリイマジネーションの仮面ライダーファイズの尾上タクミ。よろしくね」

Fさやか「う、うん。よろしく、タクミ！（なんか、巧より弱そう
で頼り無さそう…って、何考えてるんだ！あたし！！）」

さやか「こっちが、ファイズの人？」

巧「乾巧だ。」

さやか「よろしくお願いします、巧さん！（…なんか、タクミさん
より頼り無さそう）」

巧・タクミ「」（同じさやか（ちゃん）なのに、何故こうも違う！
？）」

ワタル「……」

真理「さつきから、見てるけど何か用？」

ワタル「どこから見ても、クイーンにそっくりですね」

真理「クイーン！？」

カズマ「クイーンって、確かファンガイア女王でアポロガイストの
花嫁になった奴だよな」

ユウスケ「言われて見ると、うん。そっくり」

真理「ちよっと、それ人ちが…（顔ギリギリで、何かが掠る）…っ
て、何！？」

マミ（病みさん）「女王って事は、将来ワタルくんと……ウフフフ、
邪魔者は今のうちに排除おおおおおーーーー！！！！」

一同「マミが暴走したー!」

ファイマギー同「何あの(巴)マミ(さん)!?」

それから、マミは真理を襲い始め、巧ファイズAFのアクセルクリムゾンスマッシュとワタルのダークネスムーンブレイクを喰らって、頭を冷やされました。

Fさやか「あんなに必殺技喰らっても生きているなんて、あのマミさん異常だよ!」

F杏子「あたしの気のせいかな、その内本編でのこっちのマミが『巧さんは私にとって一番大切な人なんです!真理さんには渡しません!』って病み状態で言って、真理の姉ちゃんを襲いそうなのは、気のせいだよな?」

Fまどか「き、気のせいだよ!…多分」

~~~~~

巧「とりあえず、ファイマギー組は全員揃った」

Fまどか「本当はおりこさんやキリ力さん、ゆまちゃんも呼びたかったんですが」

ショウイチ「呼んだら呼んだで、色々大変になるな」

巧「それで、これからどうするんだ?」

士・なの・フェイ「……………」

巧「なぜ黙る?」

なのは「にやはははは…」

巧「なぜ笑う!」

士「実はお前らと一緒に、チビタヌキ作の劇をやるつもりだったんだ。お前主役の桃太郎」

巧「オイ!」

ソウジ「衣装は俺が製作してたんだ」

つ 某サムライワールドに住んでいた炎神が着ていた服装。

巧「……それで、そのタヌキって奴はどうした？」

一同「たった今、星になりましたー（笑）」

ファイマギー同「笑って言うなあああー！」

杏子「って、どうするんだよ！このままじゃ、企画倒れだろ！」

「ちょっと、待ったあああああ——！」

Fまどか「誰？」

アスム「そのタヌキさんです。——チッ」

アスム「軽く舌打ちしませんでしたか？」

はやて「本当に死ぬところだったわ……でも！私にいい考えがある！」

ワタル「なんですか、その失敗フラグ」

F杏子「どっかの司令官みたいなこと言ったよ！？」

スバル「そして、崖から落ちるフラグでもあるね！」

はやて「ウフフフ……ええか！大体、こんなに集まったんや！ここは親睦を深める為に……」

クロス大戦一同「「イヤな予感が……」」

はやて「ここは、皆で銭湯やー！」

一同「はあ！？」

~~~~~

と、言うことで銭湯。それと、銭湯なのでタオルは付けていません

（笑）

言い忘れましたがファイマギー組はFと付いています

エリオ「こんなのおかしいよ……」

夏海「いい湯ですねー」

真理「本当だわー」

夏海「ところで真理さん、ちょっと聞いてください！私の扱いを！クロス大戦では中々出番が無いのに、この前キバーラに変身して出番ある！って、思ったらあつと言う間に、終わりですよ！何ですかこの扱いは！！」

真理「あ、あの…」

夏海「私だって皆のようにフォローしたり、捕らわれのヒロインをもう一度したいです！なのに…なのに…」

真理「その気持ち。よく分かる！私だって出番少ないもん！大体、久しぶりに出番あつても、空気だし……巧なんて、マミちゃんたちに構ってばかりで、私に構ってくれないし（ノノノ）」

夏海「よかった……仲間がいました。私も土君に構って欲しいです」

夏海・真理「クロスオーバーだと——私たちって本当にクウキ」

他の女性陣「なんか、色々本当にすみませんー！！」

巧（聞こえてた）「……で、どうする？」

士（同じく）「知るか。で、お前はどうするんだ？」

巧「俺より神（亜雲AZさん）に聞いてくれ」

~~~~~

その2・トリプルさやか

Fさやか「それでさ、そっちはどうするのよ？」

さやか「——まあ、あの年増っぽい魔女にあんなこと言われたら……で、そっちは？」

Fさやか「うーん。こっちのマミさんは現在、某伝説の銃使い及び、

校長先生な人状態だし……それに」

さやか「それに？」

F さやか「あいつの夢を守りたい……」（／／／）

さやか「やつぱ、私たち……」

F さやか「同じだね」

オクタヴィア「ガァー！（そんでもって、この際、私のようになっちゃえー）」

W さやか「それは嫌だ！」

オクタヴィア「ガァー！（嫌だと言っても、そうなる運命よー特にファイマギは危ないわ。どうせ、どんなに頑張っても恭介は仁美に寝取られる運命だし。変えられる事も無いわ）」

W さやか「orz」

オクタヴィア「ガァー！（まあ、頑張れw）」

~~~~~

その3 苦労人同士の愚痴

杏子「出番あるくせに、こっ毎回毎回マミのフリーダムに付き合われて、ツッコミやらされて、絶叫キャラだよ！あたし……あたし……」
F 杏子「出番あるだけ、まだマシだよ。こっちも、スピンオフでもそれなりに、頑張っているけど、未だに本格参戦してないし参戦しても……」

杏子「さやかと戦うんだろ？こっちなんで、一緒にいるくせに、さやかとの絡みが無いし」

F 杏子「本当はさやかの背中を守りたいのに……」

杏子「あーそれ、あたしも同じだわーでも」

F 杏子「でも？」

杏子「ツッコミと絶叫と言う魔の手が……」

F 杏子「うん。頑張れ」

~~~~~

その4・お前らそこ変われ

ワタル「……さて、そろそろ言っても良いかな？」

エリオ「言っても良いと思うよ」

ワタル「マミ。お願いですから、離れて下さい！」

マミ「何言ってるのワタルくん！？私たちはもう離れない関係なのよ！」

ワタル「何言っているんですか。それと暑苦しいんです！しかも、胸が背中に当たっているし！」

マミ「だって、当てているんですもの……（ノノノ）」

ワタル「（ダメだ、このマミ。もう手遅れだ！エリオアスムー助けて〜）」

エリオ「それと、キャラも何でくっつくのさ!？」

キャラ「スキンシップだよ、エリオくん！」

エリオ「スキン!?!い、イヤ…けどさ」

キャラ「ダメかな？」

エリオ「（アスム、スバルさーん、ティアさーん助けて〜）」

アスム「大変ですね二人とも」

ティアナ「子供なんだから、今のうちに見といた方が良いわよー」

スバル「そういうけど、アスムも平気だよなーなんで？」

アスム「僕はアキラさん達とよく入ってますから。でも、何故がトロキさん達に睨まれますが」

~~~~~

その5・メイドは主の下に

男風呂

バジンたん「さあーご主人様！お背中洗いましょうねー」

巧「何で、お前がここにいるんだああー！？」

バジンたん「簡単ですわw私は貴方だけのメイドなんですよ！もつと親睦を深め、そして！」

巧「帰れ」

士「そういうなって、おいメイド。背中洗え」

バジンたん「誰が洗うか、このもやし野郎」

士「誰がもやしだ！」

バジンたん「あんた以外に誰がいるんだよ、このキモもやし。大体、私のご主人様の隣に座るんじゃないよ。あんたはコソ泥かクウキの隣に座っている」

士「殴って良いか？」

巧「俺が代わりに説教してやるから、落ち着いてくれ」

この後バジンたんは泣きながら士に謝り、女子風呂に戻りました。

タクミ「流石に僕のオートバジンはあんな事無いよね…」

ユウ・カズ・シン・翔『↑バジンたんの生乳を直視してしまった為、鼻血が止まらない』

~~~~~

その6・乳揉み魔王

はやて「ほな、早速乳も…じゃない、親睦深めてのスキンシップやー！」

—— 10分後

はやて『』

→正座でプラカードに大きく『暫く自重します』と書かれ、その



なのは「さて、皆リフレッシュ出来たかな？」

一同「はい」

Fまどか「皆でお風呂、楽しかったなあー」

Fさやか「こっちの本編やスピンオフだと、皆で銭湯なんて無いからね」

F杏子「そりゃそうだ」

Fほむら「……」

バジンたん「あのタヌキ……今度あったら、轢き逃げアタック確定」

巧「ぶつちやけ、俺の存在薄かったな」

士「気にするな。大体、銭湯の話なんて野郎共より、あっちの方が良いんだ」

はやて「そんなこんなで、めでたしめでたし！」

一同「……急に締めるなあ！」

## 第2回！ 裸の付き合いは、色々楽しいよね！（後書き）

第2回目がまさかのコラボ！

亜雲AZさん作の『仮面ライダー×魔法少女 555 MAGIK  
A 〉THE LAST K/NIIGHT MISSION』及  
び『仮面ライダー×魔法少女 555 MAGIKA 超スピンオ  
フ！』です！

いやあ…最初は流石に自分とのコラボは無いと思っていましたが、  
まさか亜雲AZさんからコラボの誘いがあったので、やってみまし  
た！

ですが、矢張り難しいです。亜雲AZさんのようには上手く書けま  
せん…ハッキリ言って、色々本当にすみません：

そして、これを見ている皆さん。知っている人もいると思いますが、  
知らない人は亜雲AZさんの『仮面ライダー×魔法少女 555  
MAGIKA 〉THE LAST K/NIIGHT MISSION』通称、『ファイマギ』の方を必ず見てください！物凄く面  
白いです！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9220y/>

---

仮面ライダー×魔法少女×魔法少女 ディケイド&リリカルなのは&まどか

2011年12月6日06時52分発行